

令和6年9月19日

浦添市議会議長 殿

文教委員会
委員長 比嘉 武宏

文教委員会視察報告書

令和6年8月20日から令和6年8月22日まで、委員会視察を実施いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

- | | |
|---------|---|
| 1 視察期間 | 令和6年8月20日（火）～令和6年8月22日（木） |
| 2 視察場所 | 兵庫県神戸市、京都府京都市 |
| 3 視察項目 | 観光振興の取組とインバウンドへの対応について
インバウンドの受入れ環境整備について |
| 4 視察参加者 | 比嘉 武宏（委員長） 上原 聖也（副委員長） 仲間 烈
金城 大輔 銘苺 幸乃助 比嘉 克政 |
| 5 調査内容 | 別紙のとおり |

視察日	令和 6 年 8 月 21 日 (水)
視察先	兵庫県神戸市 人口 1,492,953 人 (令和 6 年 4 月現在) 市面積 557.05 km ² 議員定数 65 人
視察市の概要	
<p>神戸は、国際貿易港を中心に発展してきた日本を代表する大都市であり、海と山、魅力ある街並み、そして、美しい田園に恵まれた多様性のある街である。また、1868年の開港以来、多くの外国人が移り住み、常に海外からの多様な文化や新しい気風を取り入れながら、国際都市・神戸として個性豊かな発展を遂げてきた。</p>	
文教委員会視察報告書	
観光振興の取組みとインバウンドへの対応について	
調査理由	
<p>コロナ渦を経て、県内の観光需要が回復傾向にあり、本市の観光施策の参考にするため、神戸市における観光振興の取組やインバウンドの受入れ環境整備について視察を行った。</p>	
調査内容	
<ol style="list-style-type: none"> 1 神戸市における観光振興の概要について 2 インバウンドの受入れ環境整備について <ol style="list-style-type: none"> (1) 外国人観光客数について (2) 多言語対応について (3) オーバーツーリズム対策について 	
考察	
<p>神戸市は観光の街と思っていたが意外とオーバーツーリズムになることはなく、大型客船が入ってきても京都や大阪へ流れていくとのことだった。</p> <p>市の考えとしても、市民がオーバーツーリズムで普段の生活に支障が出るよりは、市民が楽しんでもらえる街づくりを行いその後観光客が楽しんでもくれる街のほうが良いという考えでとても良かった。課題としてはホテル等に宿泊してくれる観光客が少ない等の課題の解決のために夜に花火を上げ、その流れで飲食店を使ってもらったりホテル等に宿泊してもらい流れを現在作っているとの事だった。スマートパスポート事業もよく、お得に色々な市内施設を巡ったり飲食店とも提携していてとてもよく感じた。</p> <p>浦添市としても神戸市と似ている状況があると思われるのでスマートパスポート事業や、夜に飲食店を利用してもらえるような仕組み作りが必要だと感じた。</p> <p>神戸市の取り組みや今後の施策について以下記述。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムスリム向けのガイドブックを作成し、イスラム教への配慮。 ・神戸空港が今後、国際線が開港予定。 ・フリーWi-Fiが460箇所設置。 ・スマートパスポートを発行。(人気観光施設を安くで周遊できる) <p>観光予算の効果が見えづらいこともあり評価が難しいとのこと。</p> <p>キャンプキンザー返還や西海岸開発を進めるうえで先進地での取り組みを参考としていきたい。</p>	



視察日	令和6年8月21日（水）
視察先	京都府京都市 人口 1,436,247 人 （令和6年4月現在） 市面積 827.83 km ² 議員定数 67 人
視察市の概要	
<p>京都は、伝統、文化に支えられ、伝統産業から先端産業まで多彩な産業が集積し、それぞれの産業が相互に刺激を与え、連関しながら発展する産業連関都市を形成。</p> <p>個性豊かな数多くの大学や産業支援機関の集積する中で、世界で躍進世界で躍進を続ける企業が次々と誕生。こうした京都ならではの強みを生かして、ものづくり産業における新たな技術・製品の創造やクリエイティブな産業の育成など様々な分野で新しい価値を生み出し、魅力ある立地環境の整備を進めている。</p>	
調査項目	
インバウンドの受入れ環境整備について	
調査理由	
<p>コロナ渦を経て、県内の観光需要が回復傾向にあり、本市の観光施策の参考にするため、京都市における観光振興の取組やインバウンドの受入れ環境整備等について視察を行った。</p>	
調査内容	
<ol style="list-style-type: none"> 1 京都市における観光振興の概要について 2 インバウンドの受入れ環境整備について <ol style="list-style-type: none"> (1) 外国人観光客数について (2) 多言語対応について (3) オーバーツーリズム対策について <p>※視察後、霊山歴史館見学</p>	
考察	
<p>京都市はオーバーツーリズムについてマイナスなイメージばかりが先行している中でオーバーツーリズムという言葉をあまり使わないようにしているとの事だった。</p> <p>市民の方へ観光客への理解、観光客は市民生活への理解を求めてお互いが良いように進む道を探していた。しかし、街に出て現状を見てみると市内バス停に多くの観光客が並んでおり実際市民が乗る時にはかなり時間を要するのではないかと考える。</p> <p>京都市は外国の観光客が多いイメージがあったが、80%は国内旅行者でリピート率が多くあまり宣伝しなくても京都観光に訪れる方が多いとのこと。</p> <p>宿泊税も年間42億円歳入があり市民への還元も行っているとの事だった。</p> <p>京都市の取り組み等について以下記述。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊税を導入し令和元年では42億円に上る。観光インフラへ投資できる流れができています。 ・ 外国人の方へ観光マナーをしっかりと伝え、地元の方への影響も配慮している。 ・ 民宿、民泊に対しては日本一厳しい条件を設けている。無許可疑いはほとんどない状態。 <p>観光予算の効果が見えづらいこともあり、評価が難しいとのこと。</p> <p>キャンプギンザー返還や西海岸開発を進めるうえで先進地での取り組みを参考としていきたい。</p>	

